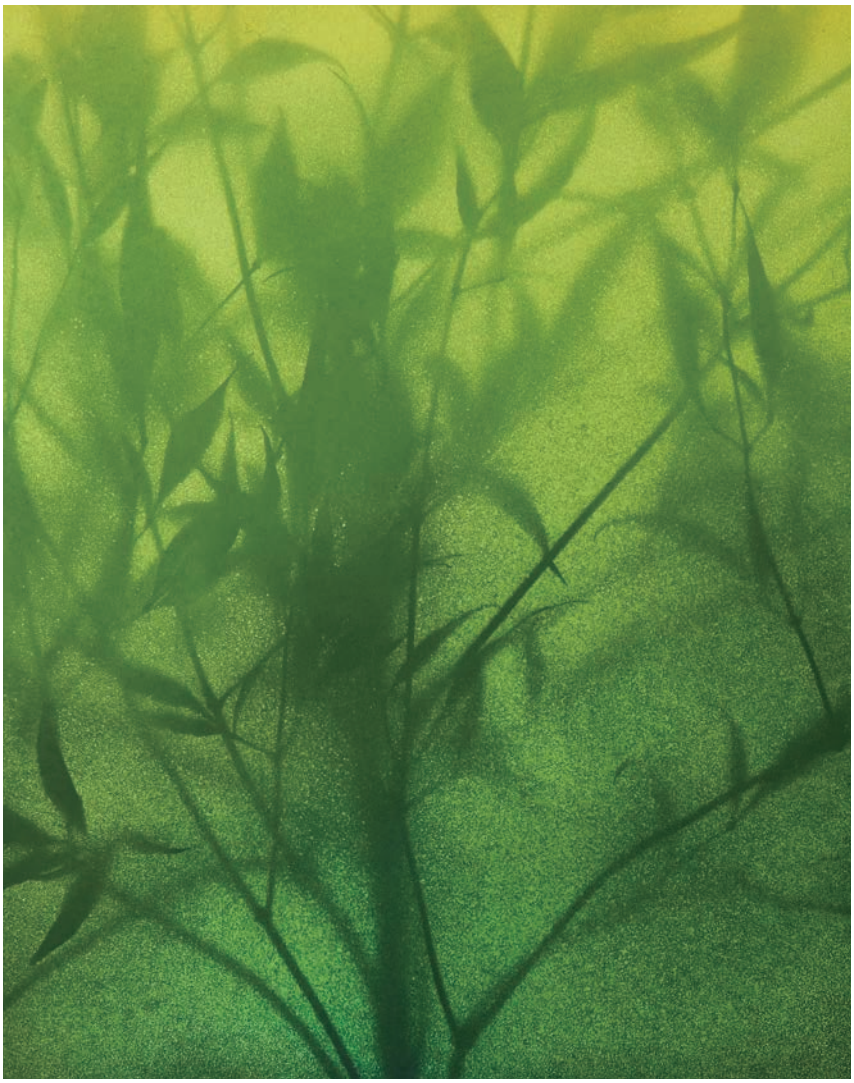
Ayuchi
あ ゆ ち

[No.90/2021.10]



「Theoria 021-14」 川田英二さん作

公益財団法人　愛銀教育文化財団

鬼まんじゅうの謎

名古屋の代表的なお菓子、
「鬼まんじゅう」。
尾張地区を中心に
愛知県の人々には馴染み深いが、
全国では「何?」と
知らない人のほうが多いのでは?
そんな「鬼まんじゅう」の謎に迫るべく、
名古屋市内で老舗和菓子店を営む、
服部功さんと山田克哉さんにお話を伺った。

菊里松月の鬼まんじゅう「おいもさん」

鬼まんじゅうは、どんなお菓子?

まずは、「鬼まんじゅう」という言葉を初めて耳にした人のために、どんなお菓子なのかを簡単にご紹介しよう。

材料は、サツマイモ、小麦粉、砂糖の三種類。作り方はシンプルで、角切りのサツマイモに小麦粉と砂糖を混ぜ合わせて、蒸し上げるだけ。生地はツヤツヤで、もちもちっとしたしっとり系と、少し軽めなふわっと系がある。よりふわふわな生地にしたい場合は、ふくらし粉を入れることもあるようだ。

サツマイモがたっぷり入って、腹持ち抜群! 昔から多くの人々に愛されている、名古屋のソウルフードとも言える素朴な庶民のおやつである。

自然発生的に生まれたお菓子!?

サツマイモは栽培がしやすく、栄養価が高い。名古屋市西区・北区の庄内川河川敷辺りは、戦前よりサツマイモの産地として有名で、特に北区味鋺のサツマイモは評判が良く、様々なスイーツに用いられている。

さて、鬼まんじゅうの始まりについてだが、諸説ある。まずは、サツマイモの産地であった西区や北区の家庭で、おやつとして作ったのが始まりという説。

または戦時中の食糧難の時に、手に入りやすいサツマイモを小麦粉と混ぜて蒸し、お米の代わりに主食としたのが始まりという説。

はたまた、江戸時代に飢饉の備蓄食料から嗜好品に格上げされたサツマイモを使って、蒸し芋文化の流れから派生して生まれたのではないか、など。

どれも確証はないものだが、ただ一つ言えるのは、家庭で生まれたお菓子であるということ。

最初に鬼まんじゅうを作った誰かが、隣近所にお裾分けして、まずはその地域で根付く。そこへ、他の地域から訪れた人が食べておいしかったからと、持ち帰って配ったり、作ってみたりして、そこでまた根付く…。というような感じで、人から人へ自然に広まっていったのだろう。

家庭で自然発生的に生まれたため、文献などで鬼まんじゅうの記述が発見されることはほとんどない。そのため、始まりについては、未だ謎に包まれている。

名前の「鬼」はどこから?

「鬼まん」の愛称で親しまれている鬼まんじゅうには、いろいろな呼び方がある。芋まんじゅう、芋ういろ、お芋さん…など。その中で名前のユニークさに注目が集まり、鬼まんじゅうという名前が広く知れ渡ることになった。

でも、「鬼という言葉は、どこから出てきたの?」「餡が入っていないのに、なぜまんじゅうって言うの?」など、ふと気になる人も多いのでは?

ここで、名前に「鬼」がついた由来について、いくつか紹介しよう。

東海エリアでしか出会えない!?

名古屋を中心に尾張地区で食べられていた鬼まんじゅう。メディアなどで、名古屋のB級スイーツとして取り上げられるようになってからは、それに付随して岐阜や三重の東海エリアの和菓子店でも販売するところが出てきました。岐阜などでは、四角い形の鬼まんじゅうもあるそうです。

大分に、鬼まんじゅうに似た「石垣まんじゅう」というのがあるそうですが、基本的には愛知、岐阜、三重の東海エリアでしか出会えないよう。今後、知名度のアップとともに、日本中に広まっていくかもしれませんね。

由来その1
サイコロのように角切りにされたサツマイモのごつごつした感じが、鬼が持っている金棒のようだから。

由来その2
サツマイモの角張った感じが、鬼の角のようだから。

由来その3
戦前・戦後の小麦粉は、今よりも黒っぽく、出来上がりも黒っぽくなり、鬼のような不気味さがあったことから。

山田餅本店の鬼まんじゅう

由来その4

飢饉のときに、災いを鬼とみなし、サツマイモを食べることで「鬼を封じ込める」という厄除けの意味から。なぜ鬼とサツマイモがつながるのかはわからないが…。

名前に「鬼」がついた由来も、発祥と同様にどれも確証はない。鬼を連想させる見た目からきている、というのが通説のようだ。

「まんじゅう」という名前の由来については、残念ながら何もわからなかった。

ともあれ、最初に「鬼まんじゅう」と呼んだ人は、秀逸なネーミングセンスを持っていたと言えるだろう。

なぜ角切り？

鬼まんじゅうの一番の特徴と言える、サツマイモの角切り。なぜ、角切りなのでしょうか。生のサツマイモはかたく、なかなか切りづらさがあります。そのため、手早く切れて、一番切りやすい切り方が角切りで、大きさも揃えやすかったから、というのがあるようです。いかにも手軽さが一番な、家庭で生まれたお菓子ぽいですね。

新芋が出る夏もおいしい！

素材が勝負と言われる鬼まんじゅうの主役は、やはりサツマイモだろう。

現在、品種改良もされ、産地ごとに特徴のあるいろいろなサツマイモが出てきている。だが鬼まんじゅうに一番合うのは、昔ながらのほっこりしたサツマイモ。蒸した時に形が崩れず、べたつかず。食べた時に、サツマイモのほこほこした食感と、歯ごたえのあるもちもちした生地の絶妙なバランスを楽しめるからだ。

サツマイモの旬は秋で、鬼まんじゅうも秋や冬がシーズンと思っている人も多いだろう。だが、新芋が収穫できるのは初夏、六月頃から。新芋は渋味や変色の原因となるアクが少なく、きれいな黄色の鬼まんじゅうを作るのに適していると言われている。

今では一年中味わえるが、お店によっては新芋が出回る期間限定で販売するところもあり、この時期のものが一番おいしいとも。実は夏もシーズンと言えるお菓子だったのだ。

山田餅本店 山田克哉さん

「鬼まんじゅうは不思議に包まれたお菓子。全国のお菓子屋さんでも作られるようになるといいなと思います。」

強い蒸気で蒸し上げる鬼まんじゅうは、小麦粉だけの生地が軽めの、ふんわり系。1年を通して販売。

こんな食べ方はいかが

牛乳と一緒に！

レンジなどで温めた熱々の鬼まんじゅうを、冷たい牛乳とご一緒に！子供のおやつにもぴったりです。

おかずに！

一口サイズくらいに切って醤油を少したらして、甘辛味に。また、温めた鬼まんじゅうにバターをのせて、じゃがバターのような感じで。サツマイモは野菜なので、おかずやおつまみとして食べてもおいしいです。

家族でアイデアを出して、いろいろな食べ方を楽しんでみてはいかがでしょうか。

進化する鬼まんじゅう！

昔ながらのシンプルな味が継承されながらも、アレンジをきかせた進化系の鬼まんじゅうも登場している。

例えば、主役をサツマイモからリンゴやかぼちゃ、栗など違う素材に変えたもの。生地に黒糖や抹茶、よもぎ、さくら、味噌などを加えたものなど、新たなレシピも生まれている。

さらには、鬼まんじゅうと同じ名古屋の郷土料理の代表「ういろ」とコラボして生まれた「鬼まんういろ」といったものなど、新たな魅力のものも誕生。

まだいろいろな可能性を秘めている鬼まんじゅう。これから、どんなユニークなものが出てくるのか楽しみだ。

かぼちゃの鬼まんじゅう（菊里松月）

生地が米粉で作られた鬼まんういろ（菊里松月）

菊里松月 服部功さん

「全国の人に知ってもらえるように、地域で名古屋のお菓子として盛り上げていきたいです」

サツマイモと小麦粉、それぞれの味をしっかり楽しめるもっちり系の鬼まんじゅう。店頭の販売は6月中旬から11月頃まで。作り立てをその日の内に真空パックした冷凍鬼まんじゅうもあり。

名古屋が誇るB級スイーツ。

鬼まんじゅうの魅力は、なんといっても素朴な味わい。大人にとっては、どこか懐かしさを感じる郷里のお菓子だ。

サツマイモは日本のどこにでもあり、小麦粉も特別なものではなく、考えてみればどこでも作れそうなもの。しかし、なぜか名古屋を中心とする尾張地区でしか発展しなかったから、不思議なものだ。

発祥や名前の由来など、結局は何も確かなことはわからなかった。謎は謎のままだから、おもしろいのかもしれない。

家庭で手軽に作られるお菓子として受け継がれてきた鬼まんじゅうは、まさに名古屋が誇るB級スイーツ。名古屋スイーツのスターとなって、全国にその名が知れ渡る日も、そんなに遠いことではないのかもしれない。

■取材協力／菊里松月、株式会社 山田餅本店

■参考／47都道府県・和菓子/郷土菓子百科（亀井千歩子著）、なごや飲食夜話2幕目（安田文吉）、うちの郷土料理「鬼まんじゅう愛知県」（農林水産省）

「美術っておもしろいね！」と思える機会を多くつくっていきたいです。

拝戸雅彦（愛知県美術館 館長 愛銀教育文化財団 評議員）

■拝戸雅彦 プロフィール

1964年、名古屋市生まれ、名古屋大学文学研究科博士課程後期美学美術史専攻中退。専門はイタリアルネサンス美術。1991年に愛知県庁総務部文化振興局に技師として入庁。1992年より愛知県美術館に勤務。学芸員、副館長を経て、2021年4月より現職。美術館で開催された多数の企画展のキュレーションに関わる。あいちトリエンナーレは事業立ち上げから関わり、あいちトリエンナーレ2010・2013・2016はチーフキュレーターとして携わる。

People

母が洋裁をしていたので、家には洋服の生地がたくさんあり、いろいろな色があふれていました。小学生の頃は、美術や音楽が好きな母に連れられて美術館にも行き、美術はなんとなく近くにあったものです。

中学と大学時代は音楽にも関心があり、吹奏楽やジャズをやっていました。ただ、大学の時にすごく上手な人が側にいたので、「ああ、演奏者にはなれないな」って（笑）。でもその時思ったのが、自分で演奏はできないけど、それを理解して言葉で表現し、伝えることはできるのではないかなということ。美術も同じで、基本的に言葉のない世界です。ビジュアルと呼ばれる目で見る世界を理解してもらうために、どうやって言葉で伝えられるかということに関心を持ったんです。やはり人間は言葉で理解する部分が大きいですから。それで、大学に指導を受けたいと思う先生がいたこともあり、美術史学の扉を叩きました。イタリアルネサンス美術を専門で学びましたが、一つひとつの絵が持つ意味を読み込んでいくのが楽しかったです。まるで謎解きのようでしたね。愛知県美術館の学芸員となってからは、皆さんに美術表現のおもしろさをわかりやすく説明できるように、日々奮闘しています。

美術は、おもしろいですよ。迫力があります。目を開いているだけで、作品からいろいろなものが見えてきて、それだけで気持ちがいいです。気分がいい状態だと、音も聴こえてくるような感じがします。それは、子供も含めて一般の方が描いたものでも同じ。一生懸命作られた作品には、描き手や作り手の想いが込められているので、すごく迫力があり、価値に差はないですね。もちろんお金の価値については別ですよ（笑）。それを欲しいと思う人がいるか、いないかの話になりますから。作品一つひとつに、ちゃんと価値はあると思っています。

美術は見て楽しむものですけど、実は人間の歴史をより良く伝えていくツールでもあります。絵が描かれた時代の人々がどうやって生きてきて、どんなことを考え、どんなものが見えていたのか、を感じ取ることができる最良のものです。例えば古代エジプトの装飾を観ていると、古代エジプトの人たちも、私たちと同じ人間だなって（笑）。死を恐れると同時に、宗教を通じて死は怖いものではない、ということを伝えようとしていたんだなって。

あと、絵には必ずフレームや背景があります。ドキュメントとしての要素もあって、どちらも大切。例えば風景画に、「○○の風景画」という言葉が記されていれば、描かれた場所の当時の様子がよりわかりやすくなり、意味を持つものになります。作品とともに、作品を支えているものも併せてきちんと残し伝えていくことが大切です。

愛知県美術館は、美術館としても、博物館としても、様々なジャンルの展示がしっかり行える美術館であるべきと、私は考えています。愛知で暮らしている人々が、旅行をしなくても様々な展覧会が楽しめる場所。愛知県の皆さんが、一年に一度は遊びに来てみたくなるような場所。そんな美術館でありたいと思っています。そして、「美術っておもしろいね！」という印象を持って帰ってもらえたら、うれしいです。

そのためにも、プロモーションをもっと頑張らないといけないですよね。愛知県の皆さんは、どの世代も情報収集力と好奇心がとても強いので、いかに好奇心を刺激して「おもしろそう」と興味を持ってもらえるようにするのか。難しいけど、しっかりとしたストーリづくりで心を掴んでいきたいと思っています。

「一つのことを知るのに全部を知る。全部を知るのに一つのことを知る」という言葉が好きで、理想として持っています。その根本にあるのは好奇心。常に好奇心を持って人から話を聞くことで、他の世界を知ることができます。その会話が、「美術に関心はあるけどよくわからない」という人の関心を開くきっかけになったりもするんです。一つかじったことが、会話することで三にも、四にもなってどんどん膨らんでいくのが楽しい。それが美術を説明する技術に変わっていくんです。上手くいかないことがほとんどですけど（笑）。

私にとって美術とは、夢というんでしょうか。次元の違う現実ですね。私たちが生きている現実は、辛く重いと感じることもあります。でも絵は、この現実の世界の中にもう一つの現実を創ることができます。それがアートなんです。この現実より強烈であったり、繊細であったり。その魅力を、これからも伝えていきたいです。美術って、おもしろいものですからね。

―談―

社寺参詣と称した物見遊山が庶民の間で盛んだった江戸時代。人々がどのような旅をしていたのか。また藩が、管轄する宿場をどう組み立てていたのか。地元である三河吉田藩と交通史を中心に、江戸時代の東海地方の歴史を研究する橘敏夫さん。

「交通史を研究していくと、江戸時代の人々の行動パターンや生活の様子がわかっておもしろいですよ」

例えば、人気だった伊勢参り。通常は街道を使うが、吉田宿あたりでは吉田湊から出る船を使う人が多かったそうだ。また旅人は、各宿場が行っていた施業接待という様々なサービスを受けて、一銭も持たずに伊勢まで行けたとか。中には子供一人でも行けたと書いてある史料もあったそうだが、一〇〇%信用はできないと橘さん。

「伊勢神宮の御師と呼ばれる下級神職が、伊勢神宮を売り込むために書いて配った可能性が高いんですよね」

ええじゃないか騒動の天から降ってきたというお札も、実は御師が伊勢神宮に来てもらうために置いていったのではないかと考えている。ただ、お札を誰かが置いたとしても、

降ってきたと捉える時代背景であったり、当時の人々の心の動きが興味深いと言う。

「不可思議なことはその時だけで、それが将来こういう組み立てがあったと学問で明らかになるかもしれません。そういった関心で広く視野を持てれば、いろいろなことを見通すことができると思います」

今があるのは過去があるからで、歴史は繰り返し、教訓になるものだ。だからこそ、関心を持つことの大切さを教えてくれた。

現在取り組んでいるのは、知多四国八十八ヶ所巡りについて。江戸時代よりも明治以降のほうが盛んだったようで、愛知電鉄が電車で巡るモデルルートをPRした史料などが見つかっている。だが江戸時代のものとなると、宿屋が専業ではなく農業や商売と兼業であったため、なかなか残っていない。もし、どこから何人で来ていたかがわかる宿帳が見つかれば、交通史的には新発見。期待も大きくなる。

「史料を読み込んで、誰も知らないことを、自分が最初に知れるのは楽しいです。自分しか知らないことを、小出しにして誰かに話そうかなって思ったりして（笑）」

旅行熱がすごかった。江戸時代の交通量は右肩上がり。

交通史的視点から東海地方の歴史を研究

橘　敏夫さん

第30回助成（個人）

愛知大学の綜合郷土研究所研究員、交通史学会会員。「三河国碧海郡小垣江村のお札降り」「三河吉田の「ええじゃないか」騒動」「東海道筋におけるおかげ参りと「ええじゃないか」騒動」「藩札 江戸時代の紙幣と生活」など多彩な著書を個人または所属する研究会で発表。豊橋市や大府市において歴史講座なども担当している。今後は地元である三河吉田藩の研究を集中的に行い、ブックレットを出すのが目標。

二〇一四年、春日井市に女性だけのブラスバンド、かすがいウィメンズブラスが誕生した。高校生から高齢者までいる団員の半数以上は、子育て中のママさん達。

「皆さん、練習は小さなお子さんと一緒に参加しています。泣いていても大丈夫！団員が面倒をみることもあります」

と、副代表の浅井道子さん。春日井市は昔から吹奏楽が盛んな地域。中学や高校時代に部活動で熱心に活動しており、就職や結婚、子育てで一度は音楽から離れてしまったが、どこかで演奏できる場を探している方が多いと教えてくれた。団員の二ノ方ちさとさんもその一人。

「かすがいウィメンズブラスが立ち上がると聞いて、また楽器が吹ける！って、ワクワクしましたね」

主婦が多いということもあり、練習は無理せずにできる範囲で月に2回。定期演奏会をはじめ、幼稚園や老人ホームなどへの訪問演奏会などを行っている。演奏会で常に大切にしていることは、〝一緒に音楽を楽しむ〟という一体感。

例えば定期演奏会では、簡単な楽器作りのワークショップも開催。空き箱やペットボトルなどを利用してマラカスなどを作り、子供達には自分で作った楽器で演奏に参加してもらう。また演奏会を二部制にし、一部ではクラシックの演奏会、二部では毎回テーマを決めて音楽イベントのような感じで開催。第四回の定期演奏会では運動会をテーマに、客席の皆さんには演奏に合わせて大玉転がしを楽しんでもらった。

「子どもたちは大喜びで、来場されたママさん達からも「来てよかった」という声をよく聞きます。とてもうれしいです」

体全体で音楽を楽しめる様々な演出が、演奏会は敷居が高いと思っているママさん達の意識を、子供を連れて気軽に行けるという印象に変えた。来場者数も第一回目の約三〇〇人から始まり、第四回目では約九〇〇人までに！回を重ねるごとに、ファンをどんどん増やしている。

楽器が吹けること、合奏ができることのうれしさが、話から伝わってくる浅井さんと二ノ方さん。「繋がる。楽しむ。広がる」をモットーに、音楽の素晴らしさを伝える種まきは、これからも続いていく。

定期演奏会の様子

ママも子供も一緒に！音楽の楽しさを広める種まき。

女性のブラスサウンド ～音楽を通した家族と地域の活性化～

かすがいウィメンズブラス

第29回助成（団体）

2014年、春日井市の中学・高校で吹奏楽部の顧問をされていた先生を中心に発足。現在の団員数は約30名。年に1回の定期演奏会を開催。またボランティア活動として、市内の幼稚園・保育園をはじめ老人福祉施設への訪問演奏会や、市主催のイベントなどで演奏を披露。現在は2022年6月に開催予定の第5回定期演奏会に向け練習中。練習へ笑顔で送り出してくれる家族に感謝しながら、音楽を通して地域の皆さんに元気を届けている。

二ノ方ちさと さん（ファゴット担当）

副代表 浅井道子さん（クラリネット担当）

仲間達の近況メモ

2021年 5月

●**神村泰代さん（アート作品制作）** 第31回助成・個人
Barrack underpass vol.7「刻の採集」〔Barrack underpass(名古屋市北区)〕

●**愛知県立成章高等学校 弓道部** 第31回援助・高校生
愛知県高等学校総合体育大会弓道競技東三河支部予選会出場
女子団体の部／優勝、女子個人の部／優勝、男子団体の部／第4位

2021年 6月

●**劇団名芸** 第30回助成・団体
ファミリー劇場「ぶんぶくちゃがま」〔天白文化小劇場(名古屋市天白区)〕

●**ナゴヤディレクターズバンド** 第8回助成・団体
第51回記念定期演奏会〔愛知県芸術劇場コンサートホール(名古屋市東区)〕

●**森　克徳さん（陶芸）** 第4回助成・個人
森克徳作陶展〔画廊アートフロア（高浜市）〕
第43回日本新工芸展出展〔松坂屋美術館（名古屋市中区）〕

●**新野素子さん（染色）** 第2回助成・個人
第43回日本新工芸展出展〔松坂屋美術館（名古屋市中区）〕

2021年 7月

●**はせひろいちさん（劇作・演出）** 第8回助成・個人
劇団ジャブジャブサーキット・番外リハビリ公演 サワ氏の仕業・特別編 ～「研究員Cの画策」ほか怪しい短編コラボ～　作・演出 はせひろいち〔大須七ツ寺共同スタジオ(名古屋市中区)〕

●**名古屋テアトロ管弦楽団／合唱団** 第29回助成・団体
第3回公演　G.プッチーニ「トスカ」全3幕〔東海市芸術劇場大ホール(東海市)〕

●**足助ゴエンナーレ実行委員会（文化イベント）** 第27回助成・団体
こまきアートプロジェクト「点と点と線」開催〔小牧市内各所〕

●**中野金弘さん（地域劇団の指導・育成）** 第8回助成・個人
インド古典音楽×創作舞踊×漆芸 INORI ～マサラ(混ざる)エキジビション～ 企画・演出 中野金弘〔木之下城伝承館・堀部邸(犬山市)〕

2021年 8月

●**Musikus（クラシックコンサート）** 第22回助成・団体
納涼！ほっとサマーコンサート 音楽物語「妖怪づくし」
〔武豊町民会館ゆめたろうプラザ響きホール 他〕

●**総合劇集団俳優館** 第26回助成・団体
夏休みファミリー劇場2021 ミュージカル「雪の女王」
〔愛知県芸術劇場小ホール（名古屋市東区）〕
ミュージカル・シアター「ぐりむ♪りむりぐ♪むりぐ♪りむ」
〔愛知県芸術劇場大リハーサル室（名古屋市東区）〕

●**新城吹奏楽団** 第6回助成・団体
サマーコンサート〔豊川市一宮生涯学習センター集会室(豊川市)〕

2021年 9月

●**劇団名芸** 第30回助成・団体
天白平和と文化のつどいに 朗読劇「わたしたちの情熱」で参加　〔天白文化小劇場（天白区）〕

●**鈴木孝幸さん（現代美術）** 第28回助成・個人
「飽きと知性 Against the Tiresomeness」新城市出身者を含む4名のアーチストによる作品展示、トークショー等開催〔旧門谷小学校(新城市)〕

●**Marimbart（打楽器の演奏）** 第23回助成・団体
マリンバアート結成20周年記念公演
（その1）「打フェスタ with MARImbart Vol.X Ⅵ」
（その2）MARImbart ∞ インフィニティ「レクチャー& Concert」
〔名古屋市瑞穂文化小劇場（名古屋市瑞穂区）〕

書籍・会報誌等の発行

●**安藤　榮さん** 第29回助成・個人
2020年10月…「尾張藩の米切手」発行

●**三ツ松悟さん** 第27回助成・個人
2020年11月…レポート随想 第九巻　新・刈谷八景類録
副題 新発見！“刈谷藩主の八景文書とその後継者たち”発行

●**加古文雄さん** 第5回助成・個人
2020年12月…「吉良家800年 文禄事件の真相 創作され続けた忠臣蔵」自費出版

●**まつり同好会** 第25回助成・団体
2020年12月…まつり82号「特集 祭礼の意匠」発行
2021年5・7月…「まつり通信」613・614号発行

●**はんだ郷土史研究会** 第19回助成・団体
5・7月…「はんだ郷土史だより」第96・97号発行

●**守山リス研究会** 第19回助成・団体
5～8月…「リス研通信」NO.5238～5317発行

●**野田史料館** 第1回助成・団体
5月…「野田史料館報」第160号発行

●**黒川治愿顕彰会** 第31回助成・団体
5月…愛知県治水土木の功労者「偉人 黒川治愿傳」発行

●**江南郷土史研究会** 第3回助成・団体
6～9月…「江南郷土史研究会会報」508～511号発行

●**小牧市文芸協会** 第2回助成・団体
6～8月…郷土文芸誌「駒来」第593～595号発行

●**美術文化史研究会** 第11回助成・団体
6月…機関誌「びぞん」第99号発行

●**愛知歴史研究会** 第7回助成・団体
6月…「あいち歴史研会誌」第170号発行

●**中部産業遺産研究会** 第30回助成・団体
7月…研究会誌「産業遺産研究」第28号発行

●**愛知中世城郭研究会** 第30回助成・団体
8月…「愛城研報告」第24号発行

●**堀崎嘉明さん** 第29回助成・個人
8月…「続朝鮮通信使、尾張路の旅」―江戸時代の善隣交流―発行

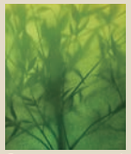
●**ミッドジャパン音の芸術祭実行委員会** 第30回助成・団体
8月…「第1回ミッドジャパン音の芸術祭記録冊子」発行

※ここには事務局に入った連絡分をまとめて掲載しました。連絡状況によって、掲載のタイミングがずれる場合があります。ご了承ください。今後も皆さんの活動状況をお知らせいただければ幸いです。

編・集・後・記

以前、和菓子屋さんに行った時、「鬼まんじゅうを食べたことがないの？」っていう、お客さんの声が聞こえてきました。私自身、子供の頃からよく知っているおやつだけに、ちょっと驚きましたが、改めて名古屋の郷土菓子なんだなって感じました。もちもちなのに、ほこほこ。この不思議な食感を、初めて味わう皆さんのリアクションはどんな感じなんでしょう。ちょっと見てみたいですね。

表・紙・作・品



「Theoria 021-14」
縦28㎝×横22.8㎝
ステンシルペインティング

川田英二さん作（第15回助成）

●**作者の言葉**
ある生徒から「ペトリコール」という言葉を教えてもらった。ギリシャ語で「石のエッセンス」という意味らしい、夏の日の夕立に地面から立ち上がるあの匂いのことである。そんな香りを感じる作品がつくりたいと思った。

チーム力を武器に。一つの舞台を創りあげていく。

演劇部
愛知県立津島北高等学校
第31回援助（高校生）

現在の部委員数は、男性1人・女性12人の13名。産休中の酒井和美先生から引継ぎ、OBである山田耀平先生が指導。平成29・30年度、令和元年度に中部日本高等学校演劇大会愛知県大会に出場。令和元年度に出場した創部初の中部日本高等学校演劇大会で文部科学大臣賞を受賞し、全国高等学校総合文化祭演劇部門へ出場する。裏方を希望している子も含め、部員全員が役者をできるような部を目指している。

山中優芽さん　部長 結城遥香さん

酒井和美先生　顧問 山田耀平先生

津島北高校の演劇部は、始まりは県大会出場を目指す小さな部活だった。現在産休中の酒井和美先生の指導のもと、二〇一九年に初の中部大会出場を果たし、さらには全国大会への切符を掴む。だがそこに至るまでには、大きな挫折があった。二〇一八年、中部大会を目指して挑んだ県大会での敗退だ。それを機に部員達は、今自分達に足りないものは何かを考え、かなりハードな練習に取り組む。そして、基礎・基本である発声や滑舌、体力などを徹底的に見直すと同時に重視したのが、組織力。作品への理解を深め、目標を統一するために、部員全員での話し合いを大切にした。

「大会に向けての練習では、すごくぶつかり合います。その度に話し合い、目標を確認し、一致団結して突き進んでいきます」

練習は厳しく辛いことも多いと三年生の山中優芽さん。だが、いいものを創りたいという気持ちがあるから頑張れる、ということを教えてくれた。

「高校演劇はお芝居ですが、教育の一環でもあるので、まず大切にしたいのは人間性。人間力を高めていくことです」

すべてがゼロベースの高校演劇では、自分達で選択し、組み立て、完成させ、反省をする。まさにアクティブラーニングで、授業で伝えていることが体現できると酒井先生。そして、観ている人の心を動かすには、まず自分の心を動かさないといけない。そのために一生懸命やるようになり、三年間の成長の度合いは目を見張るものがあると言う。

顧問でOBの山田耀平先生が、結果よりも大切にしているのが、団結力やチーム力を高めていくこと。

「自分だけでなく、まわりを見られる力を養ってほしいですね。困っている子がいれば手を差し伸べられるように。劇が終わった後に、みんなとやれてよかったと思えたら、それは成功かなと思います」

「演劇の楽しさは、自分でない人になれることと、終わった後の達成感です。今年は県大会に出られず、すごく悔しかったから、来年は絶対に勝ちたい！県大会、その先の中部大会を目指して頑張りたいです」

部長の結城遥香さんは、来年に向けて闘志を燃やしていた。

第32回（令和3年度）

助成および援助対象先決定（敬称略）

厳しい状況が続く中、私たちに元気と笑顔をくれる様々な文化と教育。選考委員会の厳正な選考を経て、がんばって活動されている25組の新しい“仲間”が加わりました。

一般助成 個人

北條知子……音楽・美術のジャンルを超えた、音を用いた芸術作品の制作・発表。
水野沙織……クラリネットの演奏活動と後進の指導。
廣瀬菜都美……演劇をとおした芸術活動。
深澤伸友……中南米の演劇や英国のハロルドピンターの戯曲の翻訳・演出。
イミック新子……ドイツや日本の子供・難民との美術を通じての交流、絵画作品の発表。
尾崎靖之……熱田区の空き家を借りて整備し、現代アートの展覧会を開催。
森田　朋……銅版画制作・発表、ワークショップの開催、講師活動。
柴田信夫……故郷「則定」の歴史、民俗史、古文書研究と書籍発行。

一般助成 団体

英語珠算研究会……英語珠算に関する研究および練習会等の開催。
東谷山湿地群保全の会……東谷山湿地群の保全活動。
Klänge……活躍中の声楽家たちによる女性だけのアンサンブルグループ。
コラボックル……打楽器とピアノのアンサンブル。
半田少年少女合唱団……合唱活動（ミュージカルの演技やダンス、振付等を含む）
STRINGS……「ほろっと泣いてクスッと笑いほっこり幸せ」になれる演劇づくりをめざして。
プロジェクトSANFA……これからの新しい舞台の可能性を追求。
名古屋朝顔会……名古屋大輪朝顔展示会を中心に盆養切り込み仕様の啓蒙活動。
牟山神社氏子総代……地域に伝わる古文書、古写真、映像フィルム等の保存・整理と活用。
NPO法人 フードツーリズム研究所 名古屋事務所
……東海道の歴史文化の継承と新しい食文化の創造による地方創生。

高校生の文化および体育活動への援助

愛知県高等学校文化連盟……歌舞伎鑑賞会
愛知県高等学校文化連盟……狂言鑑賞教室
名古屋市立向陽高等学校……ジャズオーケストラ部
愛知県立岡崎東高等学校……JRC部
愛知県立三好高等学校……陸上競技部
愛知県立西尾高等学校……登山部
愛知県立旭野高等学校……陸上競技部

Ayuchi

あゆち第90号●2021年10月

発行：公益財団法人　愛銀教育文化財団
〒460-8678　名古屋市中区栄三丁目14番12号
愛知銀行本店内 ☎(052) 251-3211(代)
https://www.aichibank.co.jp/company/csr/foundation/